

# NUAL 名古屋大学全学同窓会

## News Letter

No.2 2003.3

NUAL (ニューアル) はNagoya University Alumni Associationの略称です。



2002年10月27日全学同窓会が設立されました。設立総会・記念講演会・祝賀会の模様、その後の同窓会の諸活動についてお伝えします。

### CONTENTS

全学同窓会の設立 .....	2	委員会の活動 .....	14
会則の制定と役員を選任 .....	4	全学同窓会設立基金への寄付のお願い .....	17
全学同窓会の動向 .....	8	名古屋大学 昔と今、そして未来 .....	18
部局同窓会・同窓会支部の動き .....	10	事務局からのお知らせ .....	18

## ■ 全学同窓会の設立

### 設立総会・祝賀会

2002年10月27日午後2時15分から、豊田講堂において、佐々木雄太副総長を司会にして、名古屋大学全学同窓会設立総会・記念講演会・祝賀会が開かれ、全学同窓会が正式に発足しました。会には卒業生、現役及びOBの教職員など約600名が参加しました。設立総会の開催までに一年間の準備を行い、各部局のご理解・ご協力により当日を迎えることができました。

設立総会では、豊田章一郎会長（トヨタ自動車（株）取締役名誉会長）の名古屋大学を支援していきたいとのあいさつ、設立経過の説明、役員紹介、役員あいさつ、事業計画の説明などがありました。そして引き続き、柴田昌治副会長（日本経済団体連合会副会長・日本ガイシ（株）代表取締役会長）の「日本の国際競争力再生への道」と題した講演がありました。

その後、シンポジオンホールにて祝賀会が開かれ、会長はじめ役員、そして総会に参加した同窓生・教職員が懇親を深めました。盛会のうちに設立式典を終えることができましたのも、卒業生・修了生、また教職員の皆様のご理解の賜物と感謝申し上げます。今後ともいっそうご協力の程お願い致します。



設立総会・記念講演会



同窓会役員

## 同窓会の理念とは

名古屋大学全学同窓会は、名古屋大学と社会を結ぶ必須の組織として、名古屋大学の発展と社会への貢献を図るとともに、会員相互の交流、親睦等を目的としています。本同窓会は、卒業生や修了生のみでなく、名古屋大学の教職員及び教職員であった方などすべての関係者を構成員とする新しいタイプの同窓会を目指しています。

大学は大きな変革期を迎え、新しい大学のあり方が模索されているところです。名古屋大学ではその一環として、名古屋大学学術憲章を2000年に制定しました。その中で、名古屋大学は基幹的総合大学としての責務を持続的に果たすために、活発な情報発信と人事交流が必要であるとしています。大学が社会へ向けて情報発信および研究教育活動への参加や支援を求めるためには、大学構成員の努力だけでなく同窓生などの支援協力が不可欠であると考えています。従来は、部局同窓会が同窓生間の情報交換や親睦などの役割を果たしてきました。しかし、その活動はそれぞれの部局に限定され全学的な広がりを持つことは多くはありませんでした。今後、大学の研究教育および同窓生などの社会的な活動を広く情報共有し、大学と同窓生などとのつながりを強める新しい形の同窓会活動が必要とされています。

社会に開かれた大学として名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要です。大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズを汲み上げ、分野を越えた交流を行っていくことを切に願っています。

## 同窓会の活動とは

全学同窓会では、次のような活動をめざしています。

- (1) 全学的な見地になって、部局同窓会と連携しながら、卒業生・在学生・教職員の交流の場を提供します。また、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を同窓生などに発信します。
- (2) 中部地域の基幹的総合大学として、名古屋大学が地域社会や産業界と協力しながら進んでいく中で、全学同窓会は部局同窓会などと連携しながらその核となります。名古屋大学全体の情報発信や人的交流において、全学同窓会は中心的な役割を果たし、名古屋大学が社会に開かれた大学になるように大学と連携協力していきます。
- (3) 全学的見地から、学術研究・教育や学生の支援を行い、国内外で指導的役割を果たしえる人材の養成を通じて、人類の福祉と文化ならびに産業の発展に貢献します。名古屋大学の声価を高め優秀な人材を集めるように大学と連携協力します。
- (4) 留学生を含む同窓生などの活動を把握し、大学と連携協力をはかり情報交換と人的交流を促進する拠点を形成します。
- (5) 各部局同窓会の相互の連携協力をはかるとともに、部局を越えた横断的な同窓会活動や組織造りを支援します。

## ■ 会則の制定と役員を選任

設立総会に先だって、13時30分から事務局第一会議室において第1回評議員会が開かれ、会則の制定と同窓会役員の承認が行われました。また、伊藤義人代表幹事から経過報告と事業計画の報告がなされました。

### 名古屋大学全学同窓会会則

#### 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、名古屋大学全学同窓会と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、名古屋市千種区不老町名古屋大学内に置く。

(会の目的)

第3条 本会は、名古屋大学と社会を結ぶ必須の組織として、名古屋大学の発展と社会への貢献を図るとともに、会員相互の交流、親睦等を目的とする。

(会の事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 名古屋大学との連携と協力
- 二 交流会、講演会等の開催
- 三 部局同窓会設立の支援
- 四 その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第5条 会員の希望により支部を置くことができる。

#### 第2章 会員

(会員)

第6条 本会は、次に掲げる者をもって構成する。

- 一 名古屋大学・名古屋大学大学院の部局同窓会の会員
- 二 前号以外の名古屋大学・名古屋大学大学院の卒業生・修了生、教職員及び教職員であった者
- 三 その他名古屋大学・名古屋大学大学院に関係のある者及び法人で、会長が認めた者

(準会員)

第7条 名古屋大学・名古屋大学大学院の在學生は、準会員とする。

#### 第3章 役員等

(役員の構成)

第8条 本会に次の役員を置く。

- 一 会長 1人
- 二 副会長 若干人
- 三 代表幹事 1人
- 四 幹事 若干人
- 五 評議員 若干人
- 六 監事 若干人

(役員の選任)

第9条 会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事は、評議員会において選任する。

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐する。
- 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

- 4 幹事は、幹事会を構成し、会務を分掌する。
- 5 評議員は、評議員会を構成し、重要事項を審議する。
- 6 監事は、本会の会計を監査する。

(名誉会長)

第11条 本会に、名誉会長を置くことができる。

(顧問)

第12条 本会に、顧問若干人を置くことができる。

- 2 顧問は、会務に関する重要事項について助言する。

第13条 副会長、代表幹事、幹事、評議員及び監事は、評議員会の議を経て会長が委嘱する。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。

(任期)

第14条 役員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

#### 第4章 会議

(会議)

第15条 本会の会議は、幹事会及び評議員会とする。

(幹事会)

第16条 幹事会は、会長、副会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 評議員会に付議すべき事項
- 二 評議員会の審議を要しない業務の執行に関する事項

(評議員会)

第17条 評議員会は、会長、副会長、代表幹事及び評議員をもって組織し、会長が招集する。

- 2 評議員会は次に掲げる事項を審議する。

- 一 会則の改廃に関する事項
- 二 事業計画及び事業報告に関する事項
- 三 予算及び決算に関する事項
- 四 会員の資格に関する事項
- 五 その他会長が諮問する事項

- 3 監事は、評議員会において本会の会計監査結果を報告するものとする。

(定足数)

第18条 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

#### 第5章 会計

第19条 本会の経費は、支援会員(会員のうち支援会費納入者)の会費、部局同窓会分担金及び寄附金等をもって充てる。

(会計)

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終わる。

(施行細則)

第21条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この会則は、平成14年10月27日から施行する。

名古屋大学全学同窓会役員

平成 14 年 10 月 27 日現在

役員の区分	氏名	部局同窓会名	現職	備考
会長	豊田章一郎	工学部・工学研究科同窓会	トヨタ自動車(株)取締役名誉会長	
副会長	太田和宏	工学部・工学研究科同窓会	(株)デンソー特別顧問 豊田紡織(株)相談役	
	岡田邦彦	経済学部キタン会	(株)松坂屋取締役社長	キタン会会長
	柴田昌治	法学部同窓会	日本経済団体連合会副会長 日本ガイシ(株)代表取締役会長	
	寺澤宏	経済学部キタン会	中部電力(株)取締役副社長	キタン会理事
	丹羽宇一郎	法学部同窓会	伊藤忠商事(株)代表取締役社長	
	齋藤英彦	医学部学友会	国立名古屋病院長	
評議員		若干人・・・別表のとおり		
監事	福永滋	法学部同窓会	弁護士(元名古屋弁護士会会長)	名大法曹会会長
	光岡朗	経済学部キタン会	公認会計士光岡朗事務所所長	キタン会監事
顧問	飯島宗一	医学部学友会	(財)科学技術交流財団理事長	元学長
	鈴木礼治	経済学部キタン会	愛知県国際交流協会会長 前愛知県知事	
代表幹事	伊藤義人	工学部・工学研究科同窓会	名古屋大学附属図書館長	

評議員

平成 14 年 10 月 27 日現在

氏名	部局同窓会名	現職	備考
松尾稔		総長	
佐々木雄太		副総長	
小池啓三郎		事務局長	
神尾美津雄	文学部・文学研究科同窓会	文学研究科長	
*佐藤自郎	"	名古屋大学名誉教授	
*前田弘司	"	中日新聞論説委員	
村上隆	教育学部同窓会	教育発達科学研究科長	
榊達雄	"	教育発達科学研究科教授	
*織田晃	"	名古屋石田学園副学園長	
河野正憲	法学部同窓会	法学研究科長	
*関谷崇夫	"	岐阜乗合自動車(株)社長	法学部同窓会理事
*清水哲太	"	トヨタ自動車(株)副社長	
岸田民樹	経済学部キタン会	経済学研究科科長	キタン会特別理事
*水野金平	"	ホーユー(株)会長	キタン会理事
*伊藤圭一	"	(株)天狗缶詰社長	キタン会理事
神谷紀生	(情報文化学部・人間情報学研究科)	人間情報学研究科科長	
山下廣順	理学部・理学系研究科同窓会	理学研究科長	理学部・理学系研究科同窓会会長
野依良治	"	物質科学国際研究センター長	
*飛田武幸	"	名古屋大学名誉教授	理学部・理学系研究科同窓会副会長
氏名	部局同窓会名	現職	備考
勝又義直	医学部学友会	医学系研究科長	学友会会長
二村雄次	"	医学部附属病院長	学友会副会長
*曾我立巳	"	(株)大雄会医科学研究所	学友会副会長
古池保雄	(医学部保健学科)	医学部保健学科長	
後藤俊夫	工学部・工学研究科同窓会	工学研究科長	
*清水定彦	"	東邦ガス(株)取締役会長	
*榊原定征	"	東レ(株)代表取締役社長	
山本進一	農学部同窓会	生命農学研究科長	
*山下興亜	"	中部大学副学長	
*福井敏夫	"	中日本水産(株)社長	
江崎光男	国際開発研究科同窓会	国際開発研究科長	国際開発研究科同窓会顧問
土屋昭博	(多元数理科学研究科)	多元数理科学研究科科長	
近藤健二	(国際言語文化研究科)	言語文化部長	
久野覚	(環境学研究科)	環境学研究科長	
*藤井紀之	"	日本充てん協会副会長	名球会会長
*山田尚寛	"	(株)中部新都市サービス常務取締役	八いつ会会長
妹尾久雄	(環境医学研究所)	環境医学研究所長	
上出洋介	(太陽地球環境研究所)	太陽地球環境研究所長	

\*印は学外者 部局同窓会等欄( )書きは、同窓会組織の無い部局

## ■ 全学同窓会の動向

### 同窓会幹事会の開催

第1回幹事会（2002年11月8日）

設立総会の実施結果の報告、設立基金の寄附状況の説明があった後、今後の組織・運営体制及び事業計画について提案がありました。

第2回幹事会（2003年1月17日）

幹事・委員会の構成についての報告、各委員会からの報告、設立基金の寄附状況の報告などが行われ、続いて事業計画案（アカデミックハブ形成と国際的リーダー養成プロジェクト）の趣旨説明がありました。

第3回幹事会（2003年3月4日）

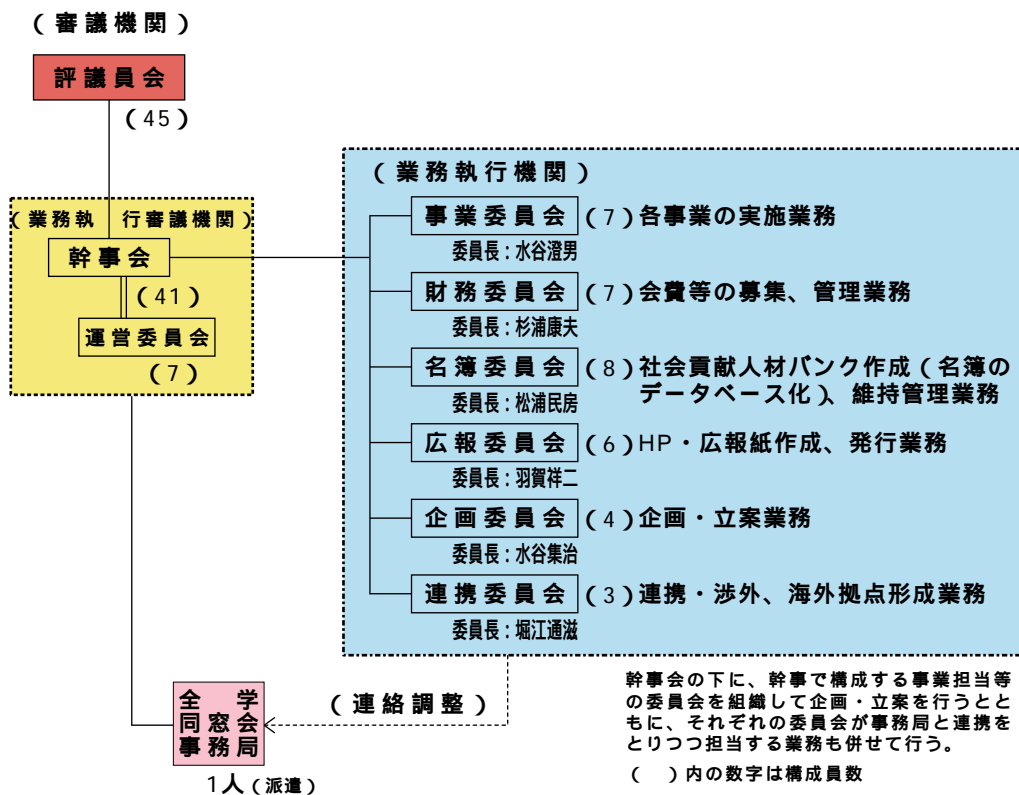
各委員会からの報告、設立基金の寄附状況の報告、事業計画の進捗状況の報告などがあり、また3月26日に東京で開催される「名古屋大学全学同窓会関東支部」設立にむけての準備状況の説明がありました。

### 全学同窓会の組織

全学同窓会は、以下の図に示した組織で運営されています。

2003.1.1

#### 名古屋大学全学同窓会組織図



全学同窓会の幹事（2003年1月1日現在）

氏名	部局同窓会名	現職
羽賀 祥二	文学部・文学研究科同窓会	文学研究科教授
清水 純夫	〃	文学研究科教授
岡本 耕平	〃	環境学研究科教授
高木 靖文	教育学部同窓会	教育発達科学研究科教授
* 須賀 藤隆	〃	愛知県立一宮高等学校長
堀江 通滋	法学部同窓会	法学研究科助教授
* 原田 隆	〃	アイコー(株)代表取締役
* 片岡 大造	〃	新和企業(株)顧問
* 水谷 澄男	経済学部キタン会	(社)キタン会事務局長
根本 二郎	〃	経済学研究科助教授
* 松枝寅太郎	〃	(株)松枝衣裳総本店社長
北 栄輔	(情報文化学部・人間情報学研究科)	情報文化学部助教授
築地 立家	〃	人間情報学研究科助手
* 松浦 民房	理学部・理学系研究科同窓会	名古屋大学名誉教授
上村 大輔	〃	化学測定機器センター長
杉浦 康夫	医学部学友会	医学系研究科教授
下方 薫	〃	医学系研究科教授
三宅 養三	〃	医学系研究科教授

氏名	部局同窓会名	現職
河村 守雄	(医学部保健学科)	医学部保健学科教授
安田 仁彦	工学部・工学研究科同窓会	工学研究科教授
豊田 浩孝	〃	工学研究科助教授
* 水谷 集治	〃	名城大学非常勤講師
横地 秀行	農学部同窓会	生命農学研究科助教授
福田 勝洋	〃	生命農学研究科教授
白武 勝裕	〃	生命農学研究科助教授
東村 岳史	国際開発研究科同窓会	国際開発研究科助教授
三宅 正武	(多元数理科学研究科)	多元数理科学研究科教授
藤井たぎる	(国際言語文化研究科)	国際言語文化研究科助教授
柴田 庄一	〃	国際言語文化研究科教授
田中 剛	(環境学研究科)	環境学研究科教授
* 小川 克郎	〃	名古屋大学名誉教授
田中 京子	(留学生センター)	留学生センター助教授
コノミ 許斐ナタリー	〃	留学生センター助手

\*印は学外者  
部局同窓会等欄( )書きは、同窓会組織の無い部局



## ■ 部局同窓会・同窓会支部の動き

2002年4月から2003年3月までの各部局の同窓会及び同窓会支部の動向をお伝えします。

### 工学部・工学研究科同窓会と工学部60周年記念祝賀行事

工学部・工学研究科同窓会は、各学科・専攻単位の同窓会の集合体として組織されている。会長、副会長（2名）、庶務（2名）、会計（2名）および常任評議員・評議員（各学科・専攻同窓会ごと）で評議員会は構成されている。年1回の評議員会を開催し、4年に1回全体の同窓会名簿を発行している。各学科・専攻同窓会は、非常に活発に活動しているが、工学部・工学研究レベルでの独自の活動は、名簿発行を除いて、従来は難しい情勢であった。今後、工学部・工学研究科と社会との連携に、同窓会は必須の組織として役割を果たすべきとの議論が始まっている。

手始めに、工学部60周年記念事業を、工学部・工学研究科と工学部・工学研究科同窓会と共催で行った。これは、1942年に工学部と理学部が分離したので、2002年は、工学部創設60周年記念となったためである。国立大学の独立行政法人格の取得を視野に入れると、今後、工学部・工学研究科は、これまで以上に社会と関わりを強め、産学連携事業などを押し進める必要があるとして企画された。

なお、名古屋大学全学同窓会（NUAL）の設立総会が10月27日（日）午後に行われたので、同日の午前中に工学部60周年記念祝賀行事を行い、その後全学同窓会の設立総会に参加できるように実施した。記念事業の内容は以下のようであった。

#### 1. 工学部60周年記念祝賀行事

##### 1) 工学部・工学研究科同窓会名簿の作成

4年に一度作成している、同窓会名簿をCD-ROM化し、各学科同窓会からの原稿や工学部・工学研究科から卒業生に配布したい情報も入れ込み、「工学部60周年記念名簿」を発刊する。今回は、記念祝賀会の席で、グラ段階の記念名簿とCD-ROMが紹介された。

##### 2) 工学部60周年記念講演会・祝賀会

記念講演会・祝賀会昼食会が以下のように行われた。

###### 講演会

テーマ：工学部・工学研究科と社会との連携協力

プログラム：

あいさつ 安田 幸夫（工学部・工学研究科同窓会会長）  
「同窓会の現状と将来」

講演

後藤 俊夫（工学研究科長）：  
「名大工学研究科の課題と今後の展望」

太田和宏（昭29年機械卒、全学同窓会副会長、株式会社デンソー 特別顧問、  
豊田紡織株式会社 相談役）：

「我国企業の競争力の現状」

参加者：約200名

日時：平成14年10月27日（日）10：00～11：30

場所：講会議室

太田氏の講演は、日本の国際競争力の現状と大学のこれからの役割について、詳しいデータを提示しての非常に興味深く、好評な講演であった。

###### 祝賀会（昼食会）

日時：平成14年10月27日（日）11：45～13：30

13：00から最近の工学部・工学研究科の近況紹介ビデオを上映した。

場所：シンポジオン

参加者：160名

後藤研究科長、松尾総長、水谷副会長の挨拶の後、榊名誉教授の乾杯で祝賀会は、盛会に行われた。特に、榊名誉教授は、今年、卒寿を向かえられ、この行事を大変喜ばれておられた。

工学部・工学研究科同窓会副会長

全学同窓会代表幹事・附属図書館長 伊藤義人

## 2002年4月20日 理学部同窓会が設立されました

4月20日、理学部・理学研究科は創立60周年を迎えました。記念行事に先立ち、シンポジオンホールで理学部・理学系研究科同窓会設置総会が開かれました。設置総会には卒業生やOB職員等200余名が出席し、松浦民房同窓会設立準備委員長から経過報告、同窓会会則の説明があり、また同窓会役員の選出が行われました。その後、創設祝賀会が開催され、年代を超えた参加者の親睦の時間をもちました。

## 2002年10月27日 法学部同窓会が開催されました

10月27日の全学同窓会設立総会に先だて、法学部同窓会が法政国際教育協力センターで開催されました。同窓会、名誉教授、教職員等60名以上が参加し、親睦を深めました。同窓会では丹羽宇一郎伊藤忠商事社長（昭和37年卒）のコーポレート・ガバナンスのあり方をテーマにした講演が行われ、また引き続き懇親会で和やかな歓談の場を持つことができました。

## 2003年3月15日 文学部・文学研究科同窓会が設立されました

文学部にはかつて「青桐会」という同窓会がありましたが、しばらく活動停止状態が続いてきました。今年は文学部校舎の耐震改修工事が行われ、また全学同窓会の設立がなされたこともあって、「青桐会」を継承して、新たに「文学部・文学研究科同窓会」として再出発しました。当日は設立総会が新装なった文学部校舎で行われ、引き続いてアメニティーハウスにて祝賀会を、多くの参加者を得て開くことができました。

## 2003年3月26日 全学同窓会関東支部の設立総会が開催されます

東京神田の学士会館において名古屋大学全学同窓会関東支部の設立総会・記念講演会・祝賀会が開催されます。関東地区在住の同窓生・教職員に呼びかけを行い、盛大な発会式を挙行致します。関東支部長には全学同窓会副会長の丹羽宇一郎氏（法・S37卒、伊藤忠商事社長）の就任が予定されています。設立総会に続いて、松尾稔名古屋大学総長による「名古屋大学の将来構想と最近の改革」と題する記念講演が行われます。

この日を期して、会員数約14,000名の「名古屋大学全学同窓会関東支部」が正式に発足いたします。関東在住の卒業生・修了生の皆様の積極的なご参加をお願い致します。

## 名古屋大学部局同窓会の状況

部局名	名称・役員	特徴
文学部・文学研究科	文学部・文学研究科同窓会	2003年3月15日創設 総会と同窓会通信の発行 研究科と共催のシンポジウム共催
教育学部・教育発達科学研究科	教育学部同窓会 会長 織田 晃 副会長 剣持 一郎 " 平野 善計	会員 2600名 名簿作成(10年に1度) 同窓会通信、総会
法学部・法学研究科	法学部同窓会 理事長 関谷 崇夫 副理事長 原田 隆 " 成田 清	名簿作成(2年に1度) 総会(2年に1度)、会報(毎年)
経済学部・経済学研究科	社団法人キタン会 会長 岡田 邦彦 副会長 松枝寅太郎	会員 11000名 母校助成事業、機関紙(毎年)、名簿(隔年) クラブ運営、ホームページ
理学部・理学研究科	理学部・理学系研究科同窓会	現在名簿作成中 ホームページ
医学部・医学研究科	医学部学友会 会長 勝又 義直 副会長 二村 雄次 " 曾我 立巳	名簿作成(3年に1度)、学友大会(毎年) 時報(毎年)
工学部・工学研究科	工学部・工学研究科同窓会 会長 安田 幸夫 副会長 水谷 集治 " 伊藤 義人	学科・専攻の連合同窓会、評議会(毎年) 名簿作成(4年に1度)
農学部・生命農学研究科	農学部同窓会 会長 福田 勝洋 副会長 竹谷 裕之	総会、講演会、懇親会、記念事業への協力 卒業祝賀会の開催、会報、名簿、ホームページ
国際開発研究科	国際開発研究科同窓会 会長 東村 岳史 副会長 田所真生子	

## 各学部・研究科等同窓会へのリンク

法学部同窓会 <http://www.nomolog.nagoya-u.ac.jp/ob/index.html>

経済学部キタン会 < 社団法人 キタン会 > <http://www.kitankai.or.jp/>

理学部・理学系研究科同窓会 <http://dousou.sci.nagoya-u.ac.jp/>

農学部同窓会 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/dosokai/index.html>

工学部電気系教室同窓会 < 二葉会 > <http://www.nuee.nagoya-u.ac.jp/futaba/>

工学部材料系教室同窓会 < 共晶会 > <http://www.numse.nagoya-u.ac.jp/kyosho/>

## 委員会の活動

### キタン会と全学同窓会の事業委員会の現状

全学同窓会事業委員会委員長

(社)キタン会事務局長 水谷澄雄

#### (1) キタン会

キタン会は1920(大正9)年に創立された官立名古屋高等商業学校の同窓会として発足した。同窓会は1924年5月に設立され、当時の校長である渡辺龍聖先生が「其湛会」と命名した。その由来は詩経「小雅」篇に「子孫其湛、其湛日樂」とあるによる。意識すると「子孫やよたのしやな、やよたのしやな、さてもたのしやな」と、音楽を奏で酒を酌んで祖先をまつり、一族が相集まって楽しむ様を歌ったもの。

官立名古屋高等商業学校の創立以来、同校卒業生は各界に進出し、特に地元名古屋の財界にて活躍した。しかし1949年の学制改革で廃止となり、新制名古屋大学経済学部へ継承されて現在に至っている。その間に同窓会もいくたの変遷に遭遇し、特に新制名古屋大学経済学部の卒業生は別に「啓友会」を組織し、其湛会と対立した。その後の話し合いの結果、一時「其湛啓友会」と称した時代もあったが、1976年に「其湛啓友会」を「キタン会」と改称した。

このような経緯のため、同窓会の運営の実権は名高商の先輩の手のなかにあり、名大経済学部の卒業生は、同窓会への積極的な参加が希薄であった。現在もその傾向は存在するが、時代の経過に伴い、名高商の先輩の老齢化が進み、やっと名古屋大学経済学部の同窓会としての実態を持つに至った。キタン会も変革の兆しが現れてきています。平成元年から14年卒の若い卒業生で「平成の会」を結成する動きがあります。且つ現役学生との交流を活発にしてキタン会の若返りを図っています。この動きを育て、近年のキタン会の沈滞ムード(会費の長期低落傾向)を払拭したいと考えています。

#### (2) 事業委員会

平成14年10月27日の全学同窓会設立により、設立までの事業小委員会が発展的に事業委員会となりました。全学同窓会が真にその役割を果たすためには、今後の活動の拠点として、新入生の父兄に対する活動支援要請や約束事としての現役学生への研究・就職への支援活動の具体化など、問題は山積みしています。これらの解決には事業委員会のメンバーのみならず、全学同窓会の全組織の協力が必要です。最後に名古屋大学構成員のみなさまの御支援をお願い致します。

(平成15年3月7日記)

\*\*\*\*\*

### 財務委員会の活動

全学同窓会財務委員長 杉浦康夫

財務委員会は大きく分けて2つの活動を行っている。その一つは全学同窓会の基盤を作る活動であり、もう一つは名古屋大学を支援する活動である。

- I. 全学同窓会の基盤整備の活動を平成14年10月27日全学同窓会設立総会に向けた募金活動として開始した。部局同窓会に約8,000枚、学内教職員に3,400枚の募金趣意書と募金案内を配布した。それ以後、学部同窓会関係で約11,000枚の案内を配布した。それにより現在までの募金状況(2月26日現在)は各学部同窓会関係で同窓会員の3.7%の人の募金があり、11,000,000円が集まった。また学内の教職員関係では17.2%の人の募金があり、

8,900,000 円の寄付があった。以上の結果、現在までの寄付者数 1,639 人、総額 28,121,000 円である。幹事会等では募金目標を次期総会までに各部局同窓会関連で、対構成員比で学外 10 %、学内 50 %の寄付を募ることを考えている。またこの基盤整備活動費は光岡会計事務所の援助で、会計事務を正確、公明に行うよう努めている。

- II. 名古屋大学を支援する活動としては、アカデミックハブ形成と国際的リーダー養成プロジェクト基金募金の検討である。

21 世紀の名古屋大学にとって、国際競争力を向上させ、名実ともに日本を支える大学になり、日本の将来を担うリーダーの育成をすることが不可欠である。あわせて、名古屋大学が中部地区の基幹総合大学として、この地域の特徴でもある、ものづくりを担える研究、技術開発および経営などの人材を輩出できることである。

大学は大きな変革期を迎え、新しい大学のあり方が模索され、名古屋大学では名古屋大学学術憲章を平成 12 年に制定した。その中で以下のように述べている。

1. 先端的学術研究と、国内外で指導的役割を果たしうる人材の養成を通じて、人類の福祉と文化の発展並びに産業に貢献する。
2. その立地する地域社会の特性を生かし、多面的な学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する。
3. 国際的な学術連携および留学生教育を進め、国際とりわけアジア諸国との交流に貢献する。

これを基本方針に名古屋大学後援会を視野に入れながら、約 20 億円を目標に寄付を募り、名古屋大学の国際的学術交流拠点形成を助ける。

\*\*\*\*\*

## 全学同窓会名簿について

全学同窓会名簿委員会委員長 松浦民房

名簿は、各部局同窓会と連携しながら、名簿委員会が幹事会の了承の下で、良い名簿の作成に努めています。名簿なしでは、名古屋大学全学同窓会の活動は成立しませんので、是非皆様のご協力により立派な名簿を作成し、維持して行きたいと存じます。

まず、どのような名簿を作るのが良いか考えるに当たり、全学同窓会の性格を復習します。

### ( ) 名古屋大学全学同窓会の役割

1. 名古屋大学の同一学部、研究科の同窓生を結合する。  
従来の同窓会の主とした役割です。
2. 名古屋大学の学部、研究科をまたがる同窓生を結合する。  
全学同窓会で初めて可能になります。
3. 名古屋大学と名古屋大学同窓生を結合する。  
従来の同窓会活動では重視されなかったものです。今後は重視します。
4. 名古屋大学と社会を結合する。  
名古屋大学全学同窓会で重視されているものです。同窓生を含んだ全名古屋大学が社会に貢献するために人材バンクを作ります。その名簿は充実したものが必要になります。  
などがあります。このような役割を果たすために、全学同窓会の名簿を作成します。

( ) 名簿

各部局同窓会と密接な協力して行きます。

1. 会員登録の項目

全学で統一した項目で名簿を作ります。

氏名、生年月日、卒業・修了等の年、住所、勤務先など。選ばれた項目は、従来の同窓会のものよりも、かなり多くなっています。

2. 現時点では、名簿の発行は計画されていません。しかし、将来発行される場合に備えて、非公開を希望する項目にチェックする欄を設けました。

3. プライバシーの保護のため、本人の了解なしに情報を他に教えることはありません。

4. ホームページから登録できるようにし、同窓生に自分の情報を管理して頂きます。

5. 会員資格は、基本的に、「過去に名古屋大学に在籍した人」にあります。同窓会規約でご確認下さい。

( ) ホームページからの登録

名簿を常に最新ののものにするために、ホームページ (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>) から、情報の更新をできるようにしました。

1. この登録システムでは、会員資格のある人を、部局同窓会から提供された会員名簿や卒業生、修了生、旧および現職員の名簿を用いて、登録してあります。

(1) 更新登録

会員認証の上、部局同窓会から提供された会員の情報を、会員の皆様に確認していただき、変更および追加する場合には、会員自ら「更新登録」していただきます。

(2) 新規登録

「更新登録」ができない場合（認証不能の場合や既存の名簿に無い場合）には、「新規登録」をお願いします。

以上のいずれかにより、登録していただきますが、(1)の「更新登録」を原則としております。

登録は各部局のリンクから行っていただきます。現在は、(1)「更新登録」のために、部局同窓会の会員情報を移植中です。まだ移植が済まない部局の方はしばらくお待ちいただく場合があります。

在籍中の学生、院生は「準会員」として登録済ですから、今すぐ「更新登録」してください。

卒業、修了される学生、院生の方々は、「正会員」として登録済です。今すぐ「更新登録」して下さい。

\*名簿委員会は、会員の皆様のご協力を得て、名簿の維持管理をして行く積もりです。連絡先及びホームページはニュースレターの最後のページをご覧ください。

## ■ 全学同窓会設立基金への寄附のお願い

全学同窓会の今後のさまざまな活動を支えていくために、基金の充実が緊要であることはいうまでもありません。ようやく全学、各部署、支部のそれぞれの同窓会活動も、活発化してきました。2003年2月26日現在で、1600人を超える方々から、総額で2800万円ほどの寄附金をいただいております。いっそうのご支援をお願い致します。

\*\*\*\*\*

名古屋大学全学同窓会は、寄附と会員の支援会費などで運営されますが、設立年度である平成14年度は、全学同窓会の財政基盤を確立するため、初年度の支援会費を含めて設立基金への寄附をお願いし、平成15年度以降、支援会費（会費：一口5,000円以上）をお願いしていくことになりました。

なお、平成14年10月27日の設立に際しては、設立総会への参加者を中心に寄附のお願いをさせていただきました。つきましては、全学同窓会の財政基盤確立のため、引き続き多くの会員の皆様に設立基金への寄附をお願いしたいので、御協力の程よろしく申し上げます。

おって、将来的に各部署同窓会が整備されたときには、部署同窓会からの分担金で運営することも検討していきたいと考えております。

平成14年11月

名古屋大学全学同窓会会長 豊田章一郎

### 【学外】

会 員：一口 5,000円（できるだけ4口以上お願いします）

卒業生の方は、卒業後15年以上：できるだけ4口以上お願いします

卒業後15年未満：できるだけ2口以上お願いします

法人会員：一口 50,000円（できるだけ4口以上お願いします）

### 【学内】

会 員：一口 5,000円

教 授：できるだけ4口以上お願いします

助教授・講師：できるだけ3口以上お願いします

その他の教職員：できるだけ2口以上お願いします

【振込先】 郵便振替 口座番号：00860-8-113043 名古屋大学全学同窓会

\*「振替用紙（料金加入者負担・赤色）」のご請求は、本ニュースの末尾の連絡先をお願いします。郵便局に置いてある「振替用紙（料金払込人負担・青色）」をご利用いただいても結構です。その場合は、通信欄に以下のことをご記入いただければ幸いです。

- |   |         |                   |      |               |
|---|---------|-------------------|------|---------------|
| 1 | 卒業（修了）生 | 在籍最終年             | 年    | 学部・研究科（修士/博士） |
| 2 | 教職員     | 旧職員・現職員           | 所属部署 | 職名            |
| 3 | 法人等     | 会社名               |      |               |
| 4 | E-mail  | （お持ちでしたらご記入ください）  |      |               |
| 5 | 振込額内訳   | 設立基金（個人一口 5,000円） | 円    | （ 口 ）         |
|   |         | （法人一口 50,000円）    | 円    | （ 口 ）         |

## ■ 野依良治教授 ノーベル賞受賞記念樹・記念碑

2001年のノーベル化学賞が物質科学国際研究センター長である野依良治理学研究科教授に贈られました。野依教授の受賞対象となった研究業績は「不斉水素化反応に関する研究」というものです。これを記念した記念碑と記念樹が豊田講堂の南、博物館（旧古川図書館）前にあります。

2001年12月28日、博物館前庭で、野依良治教授のノーベル化学賞受賞を記念して、記念植樹と記念碑の除幕式が行われました。アスナロの若木の植樹には、「学生がいつか野依教授のようになろうという夢を持ってほしい」という思いが込められています。また、記念碑には「研究は瑞々しく、単純明快に」という文字と「BINAP触媒のモデル図」が刻まれています。野依教授はこの記念式典の最後に、「木を育てるには水をやり、温かく育てることが大切だが、若い学生諸君は風雪に耐え、自分で育つ気概を持ってほしい」というあいさつをされました。



### 【事務局からのお知らせ】

#### 「名古屋大学全学同窓会 News Letter No.1」(2002年9月発行)

(内容) ・あいさつ 名古屋大学全学同窓会会長 豊田章一郎  
名古屋大学総長 松尾 稔

- ・「全学同窓会は何故必要か」
- ・全学同窓会設立の背景と特徴
- ・設立の理念                      ・設立までの経緯                      など

\* ご入用の方は、全学同窓会事務局にご連絡下さい。

\* 名古屋大学ホームページ内の全学同窓会ホームページでご覧いただけます。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

名古屋大学全学同窓会 ニュースレターNo.2

2003年3月25日発行

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会

名古屋市千種区不老町 名古屋大学全学同窓会事務局内

〒464-8601 TEL / FAX 052-783-1920

E-mail : [nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp](mailto:nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ : <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>